

特別展「森永のお菓子箱 エンゼルからの贈り物」

2011年11月3日（木・祝）～2012年1月9日（月・祝）

たばこと塩の博物館（東京・渋谷公園通り）で開催

森永のお菓子大集合！！
世代を超えて愛され続ける森永のお菓子の商品パッケージやポスターなど、
懐かしくて楽しい資料を一挙大公開！

たばこと塩の博物館（東京・渋谷公園通り）では、2011年11月3日（木・祝）から2012年1月9日（月・祝）まで、特別展「森永のお菓子箱 エンゼルからの贈り物」を開催します。

1899年に創業して以来、子どもにも大人にも愛される商品を提供し続けている森永製菓株式会社。今回の企画では、森永製菓が大切に保存、記録してきた商品パッケージや、関連ポスターをはじめ、販売店やさまざまなキャンペーンの写真、大正時代からの貴重な映像、さらには、新聞や雑誌の広告など、創業以来の資料を一堂に展示します。これらの資料は、みるだけでも楽しいものですが、その時々々の世相や生活のようすを映し出していて、懐かしい気持ちや、新鮮な驚きを与えてくれます。世代を超えてみなさんでお楽しみいただけるはずです。

なお、この展覧会は、企業博物館であるたばこと塩の博物館が、企業史料の保存、記録、管理、公開の重要性を伝える企画として、森永製菓（株）と協力し、お贈りするものです。

〈展示の内容〉

- ・ 1960年代の森永のお菓子屋さん店頭再現！ ・ 森永製菓の歴史 ・ 年代別、森永のお菓子大集合！
- ・ 創業者・森永太郎、二代目・松崎半三郎の起業と業績について ・ 日本における西洋菓子の普及について
- ・ 森永の広告アーカイブ ・ パッケージや包装形態の変遷
- ・ クリスマス、バレンタイン、母の日・・・キャンペーンいろいろ ・ キャラクター大集合 など（詳細は別紙3）

〈展示関連の催し〉 展示関連講演会やギャラリートークなどを予定しています（詳細は別紙2参照）

特別展「森永のお菓子箱 エンゼルからの贈り物」開催概要

名 称	特別展 森永のお菓子箱 エンゼルからの贈り物 (トクベツテン モリナガノオカシバコ エンゼルカラノオクリモノ)
会 期	2011年11月3日（木・祝）～ 2012年1月9日（月・祝）
会 場	たばこと塩の博物館 4階特別展示室
開館時間	午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）
所 在 地	東京都渋谷区神南 1-16-8（渋谷駅から徒歩 10 分。公園通り）
主 催	たばこと塩の博物館 森永製菓株式会社
後 援	企業史料協議会 協 力 財団法人エンゼル財団
入 館 料	大人・大学生 100円（50円） 小・中・高校生 50円（20円） ※（ ）内は20名以上の団体料金 ※満70歳以上は入館料無料（要証明書）
休 館 日	月曜日（ただし、1/9は開館）、年末年始（12/29～1/3）



森永ミルクキャラメルのポスター（1950年）

ご質問、画像データのご希望などございましたら、お気軽に広報担当までお問い合わせください。

お問い合わせ先：たばこと塩の博物館 広報担当：裊地（ほろち）由美子

E-mail: horochi@tsmuseum.jp

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-16-8

TEL: (03) 3476-2041 FAX: (03) 3476-5692

<http://www.jti.co.jp/Culture/museum/>

【展示関連イベント】

〈展示関連講演会〉 ※当日先着順で整理券を配布します。

11月5日（土）

「広告の中の森永」

講師：天野祐吉（コラムニスト）

12月4日（日）

「日本の激変と森永太郎・松崎半三郎の企業家活動」

講師：森田克徳（流通企業研究所代表）

12月11日（日）

「子どもの暮らしはおやつとともに」

講師：天野正子（東京家政学院大学学長）

※ 展示関連講演会は、いずれも午後2時から1階視聴覚ホールで開催。

※ 参加費無料（ただし入館料は必要です）。

※ 定員は、先着80名（いずれも当日開館時より整理券を1名様につき1枚配布します）。

〈ギャラリートーク〉 ※当日先着順（整理券の配布はありません）

11月12日（土）、12月10日（土）

野秋誠治（森永製菓株式会社コーポレートコミュニケーション部）

※ 各日とも午後2時30分から4階特別展示室にて開催。

※ 参加費無料（ただし入館料は必要です）。

懐かしくて、楽しい・・・森永の資料いろいろ (展示資料のご紹介)



1. 株式会社森永商店のポスター (1910年)

明治時代に流行した美人画ポスター。創業から 11 年、西洋菓子の人気の高まりとともに売上も伸びた、ポスターからも森永商店が株式会社化されたことがわかる。



2. アメリカンメキスト (1909年)

創業期は単品を中心に販売していたが、1905 (明治 38) 年頃からは積極的にいろいろな菓子を詰め合わせた「進物缶」も売り出した。「メキスト」とは、「詰め合わせ」の意味で、ゼリピンズなどが入っていた。



3. ブランコボーイ (1917年)
バラ売り、ブリキ缶入りを経て、1914 (大正 3) 年に、お馴染みの黄色い小箱入りミルクキャラメルが売り出された。見て楽しい広告は、現在の POP にもつながる。



4. 吊り下げ用看板 (1919年)

1918 (大正 7) 年、森永製菓は、原料カカオ豆から製品にするまでの、すべての工程を国内で行なってチョコレートを生産。ミルクキャラメルとともに、チョコレート類は森永製菓の代表的な商品となった。



5. 森永ミルクチョコレートポスター (1951年)

1950 (昭和 25) 年のミルクキャラメルに引き続き、1951 年にはミルクチョコレートの生産を復活させた。ポスターにも明るく楽しいデザインがよみがえった。このポスターは、第 5 回日本広告会広告賞を受賞している。



6. 森永インスタントコーヒー (1960年)

1960 (昭和 35) 年、森永インスタントコーヒーが発売された。現在定着している「インスタント」という言葉は、この時、森永製菓が使用を始めた。



7. 地球儀型ネオン (1953～1983年)

銀座 5 丁目のビル屋上に設置した看板。クリスマスや 1959 (昭和 34) 年の皇太子御成婚などの際には、特別バージョンになった。右は、東京オリンピック開催時のもの。「世界は一つ 東京オリンピック」の文字が加えられている。

8. 創業者：森永太一郎
アメリカで菓子作りを学んできた森永太一郎は、1899 (明治 32) 年、たった二坪の工場に、森永西洋菓子製造所の看板を掲げた。



画像データの用意がごさいます。ご掲載いただけるようでしたら、画像の番号を広報担当までご連絡いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

広報担当：褰地 (ほろち) 03-3476-2041 e-mail: horochi@tsmuseum.jp